

令和元年度 宮崎県立高城高等学校との連携事業報告

－「課題研究」ナタ・サポの取組み－

古賀 隆一
早川 純子
藤本 朋美
宮内 孝

平成29年3月28日(火)南九州大学と宮崎県立高城高等学校による連携協定を締結した。「相互の資源および機能を活かし、教育・研究及び地域社会の発展に資すること」が本協定の締結の目的である。連携事項は、「1. 教育の充実・発展に関すること」「2. 学術研究の充実・発展に関すること」「3. 地域社会の発展に関すること」「4. その他、双方が必要と認める事項」であった。

そこで、人間発達学部子ども教育学科は、この協定に基づいて高城高等学校の生徒が取り組む課題研究、特に保育分野の学習支援「ナタ・サポ」に取り組んだ。「ナタ」とは、南九州大学を南(ナ)大(タ)と呼び、「サポ」とはサポートを意味する。この「ナタ・サポ」は、本年度で3年目の取組みである。

本年度は、本学科教員が下記の2つの内容についてサポートした。

1. 保育分野に必要な表現系の知識や技術の習得を目指した学習支援
2. 「ちびっこ運動会」の企画・運営のための学習支援

本稿では、このサポートの概要について報告する。

1. 保育分野に必要な表現系の知識や技術の習得を目指したサポート

保育分野において必要な、表現リズム、造形、言語表現の知識や技術習得を意図とした学習支援である。具体的には、下記の目的が高校から示された。

○衣食住・保育等のスペシャリスト育成のため、学習の高度化を図った学習に取り組む。具体的には、保育検定の分野にもなっている表現リズ

ム、造形、言語表現などに関する実技指導の充実を図る。

○大学と連携をした授業を展開することで、より専門性の高い学習へ興味関心がわき、将来、大学に進学し、地域貢献できる人材育成に繋げる。

このような目標達成に向けて、本学科教員が下記の講義を行った。

(1) 造形 担当：古賀 隆一

◇日時：令和元年6月14日(金)

13時30分～15時05分

◇対象：3年生：7名 2年生：3名

◇場所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容：「子どもの絵のお話」の冊子を使って講義と実践演習。

幼児教育に関心のある10名の方が受講。美術教育を専門分野としているので、幼児教育の中でも造形表現、図画工作の中で主に幼児画の指導法を中心に講じた。大人と子どもの絵画表現の違いの理解を進める必要がある。子どもの絵の捉え方を、心理的に理解する上で、幼児期の発達段階から見た心象表現は感性の働きや情操教育の想像性から創造力が生まれ、人間形成や人間力に繋がることを伝えた。掛け図を使って美術の基本的な色彩や基礎デッサンについて解説した。色の成り立ちや、デッサンで使用する明暗の考え方や使い方の捉え方は、作例を基に説明した。造形表現は生活の領域で幅広く興行きもあり、文化の原点の一つでもあるから、幼少期の無文字時代の子どもの造形教育は、指導より援助学習研究の必要性を強調した。幼児期の絵を見る力は、抽象表現の理解と感性の部分で大人と共通する。簡単な実習で

あるが、全員に林檎の模型モデルを使って球体に近い形の基礎的な実技実践を行った。

生徒の皆さんの真剣さが伝わった講座だった。



(2) 表現リズム 担当：早川 純子

◇日 時：

- ① 令和元年 5月10日(金)13時30分～15時00分
- ② 令和元年 5月17日(金)13時30分～15時00分
- ③ 令和元年 7月 5日(金)13時30分～15時00分
- ④ 令和元年 9月20日(金)13時25分～15時05分
- ⑤ 令和元年10月18日(金)13時25分～15時05分
- ⑥ 令和元年11月15日(金)14時30分～16時30分
- ⑦ 令和元年12月13日(金)13時25分～15時40分
- ⑧ 令和2年 1月10日(金)14時20分～16時20分

◇対 象：2年生・3年生(約10名)

◇場 所：高城高等学校 音楽室

◇講座内容

保育検定の対象となる「音楽リズム」について、実技と筆記の両面から指導を行なった。級位によって試験内容や難易度が異なるため、実技については個人指導を通して各自の受験レベルに合わせた指導を行なった。例えば、2級ではバイエルのソロ楽曲のみだが、1級になるとバイエルでも難易度の高い楽曲が課題曲となり、さらに弾き歌いが課され、ピアノを演奏しながら歌うという高度な技能が要求される。課題曲は、予めソロと弾き歌いの楽曲が数曲ずつ指定されており、生徒達は他の様々な検定試験対策に取り組みながら練習を重ねていく。検定試験1週間前になると、課題曲の中から試験曲が1曲ずつ発表され、最後の1週間でじっくり試験曲に取り組むことになる。ただ、生徒たちは被服や食物分野の検定でも多くの

課題に取り組んでいるため、音楽にかけられる時間は限られている様子であった。その制約のなかで、計画的に日々を過ごしながらか練習時間を工面し、その積み重ねによって着実に技能を向上させていた。

筆記試験については、独学での取り組みが難しい音楽大学入試レベルのものも含まれている。例えば、音程や音階、調性、和声など。これらの対策は、級位に拘らず講義スタイルで指導を行なった。生徒達は、自分が理解できるまで質問するなど、終始熱心に取り組み、理解を定着させていった。検定試験合格というはっきりとした目標を明確に意識することが、計画的かつ能率的な日々の生活につながり、「合格」を勝ち取る成果にも結びついているものと考えられる。

(3) 言 語 担当：藤本 朋美

◇日 時：令和元年 6月 21日(金)
13時25分～15時15分

◇対 象：3年生

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容：言葉を育てる遊び

- ①保育・幼児教育においてなぜ「絵本」が重要とされるのか、その意味について考える。
- ②「言葉を育てる遊び」にはどのような遊びがあるのか、その種類を知る。(児童文化財：絵本、紙芝居、お話、わらべうた、言葉遊び等)
- ③「絵本」を通して子どもたちに何が育つのかを考える。
- ④絵本の読み聞かせを行い、その留意点を知る。

以上4点をねらいとして、実際に絵本に触れながら演習形式で行った。



絵本の魅力を感じてほしいと考え、代表作をはじめとした20冊程度の絵本を持参した。幼いころに手にした絵本もあったようで、絵本を懐かしみ、自身の体験を語り合う様子が見られた。絵本の表紙や見返しには作家の思いが込められていることを伝えると、それらの色やデザイン等から作り手の思いを想像し、自ら読み聞かせを行うなど積極的な姿が見られ、関心の高さがうかがえた。保育検定を見据えた実技指導という側面だけでなく、絵本の魅力や絵本が子どもたちに与える影響について、高校生が自身の実感を伴いながら考える時間となった。

◇「企業・郷土探究」講習会

日 時：令和元年10月10日（木）

14時30分～15時30分

対 象：1年生 40名

場 所：南九州大学

講座内容：言葉を育てる

「企業・郷土探究」の一環として、高校1年生に向けて講演を行った。「伝え合い」において言葉がどのような力をもっているのかについて考えることをねらいとし、言葉に関するワークショップを行った。ワークショップを通して、次に示す言葉の力を体感してほしいと考えた。

①人は言葉によって世界の見え方、捉え方を変えることができる。

②語彙が増えると世界を見る目が詳しくなる。
高校生自身が、「言葉」や言葉を用いた「伝え合い」について考え、自らの言葉を振り返る時間になっていれど願う。

2. 「ちびっこ運動会」の企画・運営のためのサポート 担当：宮内 孝

「ちびっこ運動会」とは、生活情報科2年生の生徒が高城幼稚園児を招待して実施する運動会のことである。

この運動会の企画・準備そして当日の運営を行う体験を通して、今までの学びを活用させる。さらに、実際に幼児にふれる体験を通して、幼児理解を深めたり、新たな学びを獲得させたりして、今後の学習への動機付けを図ることを目的として

いた。

(1) 「ちびっこ運動会」開催に向けてのワークショップ

◇日 時：令和元年9月18日（水）

13時25分～14時10分

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容

幼児の発達段階を踏まえた運動会種目の内容や子どもへの指示・説明の仕方などについて、実技を交えて行った。

運動会種目については、年長児童（5、6歳）にとって、簡単でしかも勝敗が明確にわかる運動遊びを紹介した。

また、高校生を幼児と見立てて実技をするなかで、子どもへの指示・説明のあり方にもふれた。本学科学生も参加し、本ワークショップの運営をサポートした。

(2) チャレンジ運動教室でのワークショップ

◇日 時：令和元年10月5日（土）

9時20分～12時20分

◇場 所：南九州大学都城キャンパス

◇講座内容

「ア.ちびっこ運動会」開催に向けてのワークショップの学びを活用させることと、幼児の発達段階などの幼児理解を深めることを目的としたワークショップである。

チャレンジ運動教室とは、地域の幼児（4歳から6歳）・児童（小学校1、2年生）とその保護者を対象とした運動教室である。本教室の企画・運営は、宮内と宮内ゼミの学生が実施している。

本教室に参加する子どもを8グループに分け



て、大学生が当該グループの指導者となる。高校生は、大学生の補助を行いながら、子ども理解を深めていた。

に取り組みながら、連携協定の目的達成を図りたい。

(3) 「ちびっ子運動会」参観

◇日 時：令和元年11月6日（水）

10時00分～11時30分

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

「ちびっ子運動会」に参加して、競技の内容や高校生の指示・説明の仕方、そして子どもへのかかわり方の様子を観察した。

(4) 「ちびっ子運動会」活動のまとめ

◇日 時：令和元年11月20日（水）

13時25分～14時10分

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容

「ちびっ子運動会」の振り返りとして、「運動会で取り上げた種目の内容」と「運営に関わるマネジメント」のよさについて講義を行った。

運動会で取り上げた種目の内容については、幼児期に身につけておきたい「多様な動きが確保されていたこと」や挑戦意欲を高めさせるために必要な「やさしく、おもしろい」が確保されていた。また、準備や進行が円滑に行われたことで「無駄な時間が少なかったこと」そして、子どもへの対応が笑顔で賞賛も多かったことで「明るく、穏やかな雰囲気であったこと」について指摘した。

このような生徒が行った計画・運営のよさの意味づけを行うことで、生徒の達成感を味わったり自己肯定感を高めたりする契機となったようである。

3. 「ナタ・サボ」を振り返って

この取組みをスタートして、3年が経過した。この3年間の取組みによって、高城高校と本学担当者との意思疎通も図りやすくなり、円滑な事業運営が行われるようになった。

高校生にとっては、専門家による指導が受けられることもあって、当該生徒たちは本事業を肯定的に受け入れているようである。

今後は、新たな連携事業を模索して、その実行